

## 理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 光永英世 所属： 北九州市立熊西小学校

課題名： 科学する心と力をもった子どもの育成

### 1. 課題の主旨

本校は、生活科教育の研究を昭和63年度から行い、理科教育は平成4年度から研究を積み重ねてきた。生活科で培った資質・能力を理科学習に発展させていく研究や、生活から始まり、学んだことを生活に生かす学習を進めてきた。その結果、知的好奇心をもって追究していく態度が育ちつつある。しかし、科学的な見方や考え方の高まりには達していない。そこで、理科教育に加え、環境教育も含めて身近な自然の事物・現象を対象として、自然を追究する能力や態度、自然についての認識を形成していくことによって、確かな学力を培い、科学する心と力をもった子どもの育成を図っていくようにした。

### 2. 活動状況

平成17年10月 研究助成の決定

平成17年11月～平成18年3月

- ・ 17年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践
- ・ 環境整備
- ・ ビオトープ改良計画
- ・ 17年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践のまとめ

平成18年4月～7月

- ・ 18年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業計画案立案
- ・ 環境整備
- ・ ホタルの飼育
- ・ ビオトープ改良計画
- ・ 18年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践



校区の田良原池に、育ててきたホタルがとんだよ

光の線が、ホタルの軌跡



1年「田良原公園に遊びに行こうよ」で、虫を見つけたり、見つけたことを発表したりする。



平成18年7月

- ・ フィールドワーク
- ・ 環境整備

夏のフィールドワーク



昆虫を飼育するムシムシランドの整備

平成18年9月

- ・ 18年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践
- ・ 環境整備
- ・ ビオトープ改良計画、実施

改良したムシムシランド



ビオトープ改良計画

平成18年10月

- ・ まとめと報告書作成

### 3. 結果

生活科学習では、学校の中や校区の生き物とかかわり、育てる活動を通して、生き物がすみよい環境にしたり、生きていくための餌などを考えたりして、「知的な気付き」を深めていった。

理科学習では、昆虫の生態を調べる活動において、体験的な活動を多く取り入れることができた。

総合的な学習の時間では、「ビオトープ改良計画」として、生き物が棲みよいビオトープにするために、どんなビオトープにすればよいか、また、そのためには自分たちだけではなく、全校にも呼びかけていくことも考えて活動を行っていった。また、夏休みには、3,4年生で校区を対象に、フィールドワークを行った。これらの活動を通して、生き物や環境についての興味・関心が高まってきた。

環境整備としては、昨年度から育ててきたホタルが、校区の川でとぶことができた。これは、子どもにとってとても感動的であった。また、子どもが生き物に触れることができるように、ムシムシランドの中で昆虫を飼い、飼育舎を改良しながら、生き物の成長を継続的に観察することができた。

### 4. 今後の課題と発展

生活科・理科学習においては、知的な気付きや知的な好奇心を起こさせて学習に取り組んでいくことを大事にしていくようにする。そのことで、子どもに問題意識を持った学習につながると考える。

昨年度より計画している校内や校区の生き物マップの作成を引き続き行っていくようにする。

総合的な学習の時間では、本校の特徴でもあるビオトープを生かした学習展開を今後も行っていくようにする。そのことで、生き物に対する畏敬の念も深まると考える。また、学習したことを情報発信できるようにしていく。

環境整備としては、ムシムシランドの改良も進んだので、子どもが昆虫と楽しく触れ合う活動を多く行っていくようにする。今年度できなかった水生生物の観察もできるようなコーナーを充実させていきたい。

### 5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

本年度も、理科・環境教育助成をいただき、子どもが楽しく活動を行うことができました。今後もこの活動を継続していき、自然に対して生き生きと取り組む子どもの育成を図っていきたいと考えています。ありがとうございました。